

20日 水曜

箴言

27:13 他人の保証人となるときは、その者の服を取れ。見知らぬ女のためにも、服を抵当に取れ。

27:14 朝早くから、大声で隣人を祝福すると、かえって呪いに見なされる。

27:15 長雨の日に滴り続ける雨漏りは、争い好きな女に似ている。

27:16 その女を制する者は、風を制し、右手に油をつかむことができる。

27:17 鉄は鉄によって研がれ、人はその友によって研がれる。

27:18 いちじくの木の番人はその実を食う。主人の身を守る者は誉れを得る。

27:19 顔が、水に映る顔と同じであるように、人の心は、その人に映る。

27:20 よみと滅びの地は飽くことがなく、人の目も飽くことがない。

27:21 銀にはるつぼ、金には炉があるように、人は他人の称賛によって試される。

27:22 愚か者を臼に入れ、きねでこれを麦と一緒にしても、その愚かさは彼から離れない。

27:23 あなたの羊の様子をよく知り、群れを心に留めておけ。

27:24 富は永久に続くものではなく、王冠も代々に続かないからだ。

27:25 草が刈り取られ、若草が現れ、山々の青草も集められると、

27:26 子羊はあなたに服を着させ、やぎは畑の代価となる。

27:27 やぎの乳は十分あって、あなたの食物、あなたの家の者たちの食物となり、あなたの召使いの女たちを養う。



「保証人」に関しては、箴言に4回も出てくるほど警戒が与えられています。人間的なヒロイズムで決めてしまわないように、その危険性を十分に考えましょう。忘れてならないことは、自分の財産は主のものであって、お預かりしているのだということ。その財産の使い方には主のご計画があるのだということです。無益に失うようなことは主のみこころではありません。主に聞きましよう。

「友によって研がれる」ような、互いに励まし合う者となりましよう。

「王冠も代々には続かない」とあります。王のような誉れや評判には魅力がありますが、それらははかないものです。本当に価値のあるものは何かをよく考えましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

